

第5学年2組 算数科学習指導案

令和7年11月26日(水) 第1時 5年2組教室

1 児童の課題と改善点

わり算を形式的に立式ができて、何を求めている式なのかが分かっていないことが問題点である。これらを改善するために、立式の根拠を大切にしている活動を取り入れ、児童が何を求めているか明確にできるようにする。

2 本時の目標

立式の根拠を明確にし、数直線図や関係図などを用いて自分の言葉で表現したり、他者に伝えたりすることができる。
(思考力・判断力・表現力等)

3 展開

学習活動	教師支援
<p>1 こみ具合のイメージを考える。 ・渋滞、エレベーターの中。</p> <p>2 図を見て問題を把握する。</p> <p>A 16枚あたり8人 B 16枚あたり4人 C 12枚あたり4人 D 15枚あたり7人</p>	<p>○ こみ具合という言葉の意味を理解することができるように、こみ具合のイメージを問いかける。</p> <p>○ 初めに図のみを見せ、「自分ならどの部屋で過ごしたいか」と問い、直観では判断が分かれることにより、数値を使って比べる必然性を感じられるようにする。</p>
<p>部屋のこみ具合はどのように比べればよいのだろう</p>	
<p>3 部屋のこみ具合を考える。</p> <p>(1) 考えの見通しを立てる。 ・図を動かして並べてみよう。 ・数直線や関係図を使えばいい。 ・計算で求められそう。 ・AとB、BとCは同じ数があるから簡単に比べられそう。</p> <p>(2) ①AとB、②BとCの部屋のこみ具合を考える。 ① 人数が同じなので、より面積の小さいAの部屋の方がこんでいる。 ② 人数が同じなので、より人数が多いCの部屋の方がこんでいる。</p> <p>(3) 立式し、答えで何を求めたのかノートに書く。 ・図で1人あたり何枚使えるか考えた。 ・Aは $16 \div 8 = 2$ で、「2」は1人あたりの枚数を求めている。 ・Aは $8 \div 16 = 0.5$ で、「0.5」は1枚あたりの人数を求めている。</p> <p>(4) 全体で考えを共有する。 ・数直線図を使って、1人が使える枚数にそろえて考えた。 ・面積か人数かどちらかをそろえれば、こみ具合を比べることができる。 ・そろえる時には、1あたりの数にすればそろえることができる。</p> <p>4 本時で分かったことを発表する。</p>	<p>○ 全員が考えをもてるように、図や計算など、多様な比較方法を出すように促す。</p> <p>○ 自分の考えを表現することができるように、スクールタクトで畳や人を動かせるように用意しておく。</p> <p>○ 「面積」か「人数」のどちらかの数が揃っていれば比べられそうという子どもの考えをもとにAとB、BとCを比べる場を設定する。</p> <p>○ 基準となる数がそろっていれば比べられることを確認する。</p> <p>○ 面積や人数を揃えたと考えた児童には、どのように揃えたのか問う。</p> <p>○ 数直線図を用いた児童には、数直線に単位を書くなどして、何を求めているのか明確にするよう促す。</p> <p>○ 1枚あたりの人数を求める場合と、1人あたりの面積を求める場合の違いを図や式を活用した子どもの説明を用いて確認する。</p> <p>○ こみ具合におけるわり算の意味が除数の1あたりの数を求めることに気づくことができるように、2つの考え方の共通点や相違点を述べるよう促す。</p> <p>○ 子どもが分かったすべての事柄を称賛し、授業のまとめを行う。</p>

4 評価

1人あたりの面積や、 1m^2 あたりの人数など、自分の計算が何を求めている式なのかを明確にし、自分の言葉でノートに書いたり、他者に説明したりすることができたか。

(活動3・4のノート記述・発言の様子から)